入選

母から学ぶ

山形県　第一中学校　三年
小倉　愛生

「親切」は目に見えないものです。誰かに与えればその人が笑顔になり、自分がもらったら心が温かくなる、「親切」は人の心を元気にし、それを見ている周りの人たちの心も優しくする、そんな不思議なワクチンだと思うのです。

僕の母は、介護の仕事をしています。疲れているときにお年寄りの手助けをすることは、仕事とはいえ大変だ、とときどき話しています。僕には想像がつかないけれど、お年寄りのお世話を仕事にするということは、本当に好きでなければできないことだと思います。

以前家族で出かけたとき、ある店に入ると、連休だったこともあり、買い物をする人でとても混雑していました。レジには会計を待つ人がたくさん並んでおり、僕と母もその列の中で待っていました。

もうすぐ順番が来るという頃、丁度レジの前で座っているおじいさんがいました。手には、これからお金を払うであろう商品を持っており、僕にもそれが見えました。おじいさんは立つのが大変な様子でしたが、ぼくはその様子をなんとなく見ていただけでした。

おじいさんの会計の順番はもうすぐでしたが、動くのも大変な様子で、前に並んでいる人との間隔は、大きくなりました。そのとき、待ちきれなかったのか、後ろに並んでいた男性がおじいさんの前に出ました。順番を無視したのです。男性の顔はイライラしていました。

すると、母が急に話し始め、

「おじいさんも並んでいる人です。」と、おじいさんの介助を始めました。立ち上がりが難しそうだったので、お手伝いをし、買おうとしている商品を預かり、レジまで運んだのです。

僕は少し前から、母がそのおじいさんの様子を気にかけているのは、気づいていました。もちろんそれは、仕事柄そうなのだろう、と思っていました。

母は困っている人がいると、その人に目を向けます。特にお年寄りであれば、必要なときには助けに行きます。介護の仕事をしているから、と母は言いますが、知らない人へ手助けをすることは、簡単なことではない、と僕は思います。

僕自身は友人やクラスメイト、家族など知っている人が困っていれば、助けるように心がけていますが、知らない人へ声をかけるのはなかなか難しいです。

人とのかかわりの中で、相手を思いやって行動することは、とても大切なことだとわかっていて、身近な人が困っていれば助けたいと思うし、もし僕が逆に困っていれば、手助けが欲しいとも思います。しかし、そのときに自分はすぐに行動に移せるかというと、必ずしもそうではないのが事実です。

以前母は、「お年寄りの笑っている顔を見るのが大好きだ。」と話していました。
そんな気持ちが「誰かを助けたい」と思う気持ちに繋がり、仕事にも生きているのだと感じます。そんな母を見ていると、僕もそんなふうに行動してみよう、と思えてきます。

今、僕はすぐにはできなくても、いつか誰かの心のワクチンのような存在になりたい、と強く思っています。